



自己紹介、フリーランス照明デザイナー



明けましておめでとうございます。そして皆様はじめまして。

2014年1月号からロンドンエッセイを書かせていただくことになりました、フリーランス照明デザイナーの小野です。まず、この貴重な機会を下さった勝柴次朗さんにこの場をお借りして御礼申し上げます。

2009年の松竹大歌舞伎『十二夜』のロンドン公演で勝柴さんに初めてお会いし、それ以来、ほぼ毎年勝柴さんがロンドン公演の照明でいらっしゃるたびにお世話になっておりました。そして2013年の初めに勝柴さんからロンドンでの舞台／照明事情をエッセイにしてくれないかというお話をいただきました。たどたどしい文章で恐縮ですが、ロンドンで照明に携わってきた過程、エピソード、心境や情報を皆様にお伝えできればと思います。どうぞよろしくお願い致します。

2003年、「語学勉強と舞台照明のリサーチ」のため渡英しました。1ヶ月の予定が「お母さんごめんね。明日日本に帰らないから。」と連絡を取り、帰りの

飛行機には乗らずに結局そのまま10年間ロンドンに居座ってしまいました。あのときもし帰っていたら、いつまたロンドンに来れたかわからなかったですし、やはり1ヶ月間では物足りなかったのです。銀行にお金もあまり入っていませんでしたし、泊まるあてもなくホームステイ後の最初の数日はナイトバスで夜を過ごしました。今振り返ると、行き当たりばったりの怖いもの知らず、若かったなあと思います。

ロンドンに行く前は、横浜美術短期大学立体空間科を卒業し、横浜や新潟の国際芸術祭のお手伝いをしていました。当時はプロダクトデザインや広告デザインの道に進もうかと考えていて、舞台の「ぶ」の字すら知りませんでした。

新潟妻有トリエンナーレ大地の芸術祭で作品制作のお手伝いに行ったときに、「イベントチームの人数が足りないからそっちに回ってください。」と言われ、その芸術祭のために建てられた半野外の新しい舞台に送り込まれたのがそもそものきっかけでした。その劇場には一人だけ照明のプロがいて、彼が私たちボランティアと地元のおじちゃんたち(みんな舞台の素人)に、手取り足取り舞台の基礎、要素、プロセスを一から教えてくれました。その方がいわゆる私の大先生であり、そこで舞台照明に一気に魅かれていき、人生が思わぬ方向へ…。

芸術祭の後すぐに、照明のことをもっ

と学びたいと思い、大先生に相談したところ、幅広くいろいろなカルチャーに刺激されながら照明を学びたいなら、イギリスかアメリカがいいぞと言われました。丁度、海外にも行ってみたいと思っていたところだったので、英語もままならないまま早速イギリスに1ヶ月間行くことにしたのです。

どうしてイギリスを選んだかは単純で、アメリカの銃犯罪が怖かったからということが1つ。2つ目は光の感受性です。ブロードウェイも一瞬考えたのですが、ショービジネスのカラフルで目映い照明が印象的なブロードウェイよりも、暗闇で目をかするくらいの照明が印象的な演劇やライブアートが盛んなイギリスの方が面白いと思います(偏見かもしれませんが、なぜかイギリスの照明のほうが暗くて実験的なイメージだったので、より奥行きのある照明が勉強できるのではないかと思います)、ロンドンに来ることにしました。来てみると、雨、雨、雨の真っ暗な空。自然光がこれだけ暗いから住民もきっとこれに目が慣れてるに違いない。家の中の人工照明もボワッと暗い間接照明を使う家が多いのに気づきました。雨で濡れた道路からの眩しい光の反射を抑えるために道路もほぼ全部オレンジの街灯。イギリスのお天気予報は星占いよりも当たらないというほど、気分屋なお天気。だからこそ見られる劇的な空の色の変化や雲模様は、確実にイギリスの照明家たちの目を魅了し、彼らに壮大なインスピレーションを与えていることでしょう。

●小野あずさ(フリーランス照明デザイナー)

横浜美術短期大学造形美術科卒業後、2003年に渡英。ロンドンの演劇大学 The Central School of Speech and Drama, Lighting Design科 (BA Hons) 卒業。在学中のときからロンドンパライアムでピンスポットのオペレーターとして働き始め、その後、ロンドン市内のさまざまな劇場でフリーランステクニシャンとして働く。照明チーフとして和太鼓グループ優のヨーロッパツアー後、バービカン劇場、サウスバンクセンターやロンドンのさまざまな劇場で演劇、ライブアート、コンテンポラリーダンス、コーポレートイベント、ギャラリーなど、幅広いジャンルの照明デザインを手掛けている。

最近デザインした演目&イベント:

The Lovesong of Alfred J Hitchcock (Curve in Leicester / カーブ劇場 レスター) Copyright Christmas (Barbican Centre / バービカン劇場) Choreogata (Southbank Centre / サウスバンクセンター) Burberry Perfume Press Event (バーバリー) Tarka the Otter (Buxton Opera Festival / バックストン オペラフェス) Aftermath (Toured in UK / 英国ツアー) Echigo Tsumari Art Triennial Japan (越後妻有大地の芸術祭 イベント各種 — 小室等、渋谷知らずオーケストラ等)

ウェブサイト: <http://www.ald.org.uk/pmdredir.php?number=1595>